

## 入選

### ぼくの小さな親切

岡山県 連島西浦小学校

六年 中村 心星

ぼくの通学路には、何か所か「こども 110 番」の家がある。子どもを犯罪から守るボランティアをしてくれている家だ。犯罪などのひ害にあったり、あいそうになって助けを求めてきた子どもを保護し、警察への通報なども行ってくれる。

今年の 6 月ぐらいに、同じ登校班の 3 年生の男の子が転んでけがをした。少し血も出ていた。ぼくは副班長をしているので、「こども 110 番」の家に連れていった。そこで、包帯をまいてもらったりと、手当てをしていただいた。手当てをしてもらったぼくたちがお礼を言うべきなのに、ぎゃくに、その家の方に、

「ありがとう。」

と言われた。ぼくは、照れくさかったが、うれしかった。副班長の役目を果たせた満足感も味わえた。

実は、ぼくが低学年のときに、下校中に転んでけがをしたことがある。一人で下校していて困ったぼくは、自分で「こども 110 番」の家に行って、手当てをしてもらった。だから今回、班の人がけがをした時に、おじさんの顔がうかんで、すぐに連れていくことに決めた。そのおじさんは、とてもやさしかったし、ていねいに手当てをしてくれたからだ。

「こども 110 番」の家の方は、家族でも知り合いでもない子供たちのために、やさしく接して下さる。地域の子とはいえ、本当に親切な対応に、感謝の気持ちと、心強さを感じた。

親切とは、人のために思いやりのある行動をすることだが、一人ひとりがやさしい気持ちになれば、生活の中でたくさんの「親切」があふれると思う。またそんな世の中になるといいなと思う。

ぼくは野球をしているので、練習や試合を通していろいろな人に支えられ、親切にされていると感じることが多い。だから、ぼくはぼくで、自分にできることで恩返しをしようと思っている。野球はもちろん、ふだんの生活の中で、ごみを拾ったりするなどを心がけている。

これからも、感謝の気持ちを忘れず、自分も親切な行いができるようにがんばりたい。